

千葉市コミュニティ施設の空間特性と利用行為からみた「機能複合スペース」の定義

日大生産工（院） ○高橋 潤
日大生産工 広田 直行

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

コミュニティ施設では、複数の利用行為に対応して室の兼用が行われている。一室に複数の役割を持たせた多目的化は、幅広いニーズに対応させる意図である一方、利用者にとっては様々な課題が発生している。

そこで本稿では、複数の利用行為に対応できる空間を「機能複合スペース」として抽出し、機能複合が成立するための要件を分析し、明らかにすることを目的とする。

1.2 研究の対象

本研究では、千葉市のコミュニティーセンター全 14 事例の内、調査が終了した 10 事例を対象とする。以下表 1 に概要を示す。

表 1 調査対象事例の概要

事例 No.	施設名	建設年	延床面積(m ²)
1	中央コミュニティーセンター	1974 年	9903.6
2	蘇我コミュニティーセンター	1979 年	2541.8
3	畑コミュニティーセンター	1979 年	2494.1
4	幕張コミュニティーセンター	1979 年	3122.4
5	高須コミュニティーセンター	1980 年	3459.1
6	千城台コミュニティーセンター	1991 年	3192.0
7	土気あすみが丘プラザ	1993 年	4586.1
8	鎌取コミュニティーセンター	2000 年	2745.3
9	花島コミュニティーセンター	2005 年	3965.5
10	長沼コミュニティーセンター	2006 年	2653.6

1.3 研究の方法

機能複合スペースの抽出は、各施設の資料、施設管理者へのヒアリング及び実態調査をもとに行う。

はじめに、資料から各室の規模、設えを把握する。次に施設管理者に対するヒアリング調査で、諸室を使用するサークル団体の利用行為、家具及び設備を確認し把握をする。

ここで単一目的での利用、個人利用及び予約

を必要としない室に関しては、調査対象から除くこととする。

次に抽出した諸室に対し、実際に見てまわることで、利用行為の現状と設えの確認をする。

これらの調査から諸室における利用行為、規模、設えを把握し、機能複合の成立要素を抽出し、分析することで、「機能複合スペース」の特定における要件を明らかにする。

2. 機能複合スペースの利用実態

2.1 利用行為の分類

各施設の年間のサークル活動案内及び、登録台帳から利用団体の活動内容を抽出し、ヒアリング調査で特定できた活動目的から、以下 11 種に分類する。以下表 2 に分類を示す。

表 2 利用行為の分類

	活動内容
学習	文学、語学、パソコン、歴史、講習会
体育	卓球、空手、新体操
健康体操	ヨガ、エアロビクス、気功、太極拳
育児支援	幼児教育、親子リトミック
実習	書道、水墨画、手芸、フラワーアレンジメント、陶芸、絵画、茶道、写真、着付、手品、演劇
会議	会議、研修
趣味	囲碁、将棋、麻雀
発表	発表会、講演会、映画上映
音楽	詩吟、民謡、三味線、和太鼓、尺八、琴 コーラス、楽器演奏、吹奏楽、合唱、カラオケ
踊り	日本舞踊、新舞踊、フォークダンス、社交ダンス、フラダンス、ジャズダンス
料理	料理

2.2 規模と設えによる分類

抽出した室空間を規模と設えの関係で、分類すると、①大集会室 ②大広間 ③音楽室 ④和室 ⑤講習室・会議室 ⑥音楽室 ⑦料理実習室の 7 つの要素に分類できる。以下表 3 に分類を示す。

The definition of the functional compound space seen from the spatial characterization and the use act of the Chiba city community institution
Jun TAKAHASHI, Naoyuki HIROTA

表3 規模と設えによる分類

分類	室名称	抽出室名称	平均面積 (㎡)	抽出数	全室数
①	大集会室	多目的室ホール, ヘルシーホール, 集会室, 美術・視聴 覚室	210.1	13	13
②	大広間	大広間, 和室	109.6	8	8
③	音楽室	音楽室	75.5	7	9
④	工作室	創作室, 多目的室	63.4	9	10
⑤	和室	和室, 大広間2	58.5	13	13
⑥	講習室・ 会議室	講習室, 集会室, 会 議室, サークル室, 研修室, 創作室2	54.5	53	53
⑦	料理実習室	料理実習室	52.7	1	10

①大集会室

大集会室は、平均面積 210.1 ㎡で、7 分類のうち、最大面積の室となる。全事例でみられ、ステージ、音響設備、壁面の大鏡を備え、椅子及び机を室の隅及び、倉庫に備えている。

②大広間

大広間は抽出した全 10 室のうち、2 事例を除く 8 事例にみられる。畳敷き、舞台、音響設備を備え、大集会室の次に規模の大きい部屋で平均面積 109.6 ㎡の室である。ただし、分類の区分として和室 2 室を 1 室として使用している空間は、各室ごとの面積より⑤和室に属することとする。

③音楽室

音楽室は平均面積 75.5 ㎡で、防音設備及びピアノを基本設えとしている。全事例でみられ、抽出した全 9 室のうち、2 室を除く 7 室で、複数の利用行為に使用されている。

④工作室

工作室は、抽出した全 10 室のうち 1 室を除く 9 室でみられる。工作台を設置し、水場を基本設えとして備えている。

⑤和室

和室は平均面積 58.5 ㎡の室で、全事例でみられ、水屋を備えている。

⑥講習室・会議室

講習室・会議室は、平均面積 54.5 ㎡の室で 10 事例全ての室においてみられる。椅子・机・

黒板を基本設えとしている。

⑦料理実習室

料理実習室は、全事例中 1 事例のみ、室の兼用が行われている。抽出数が少ないため、分析対象から外すこととする。

2.3 利用行為の構成比

7 分類において、利用行為の構成比率を図 1 に示す。構成比率をみると、比較的規模の大きい①大集会室 ②大広間において、健康体操、踊りの利用行為が高い。③音楽室、④工作室においては、専門室でありながら、複数の利用行為がおこなわれている。⑥講習室・会議室においては、学習及び会議が 7 分類中、最も集中している。

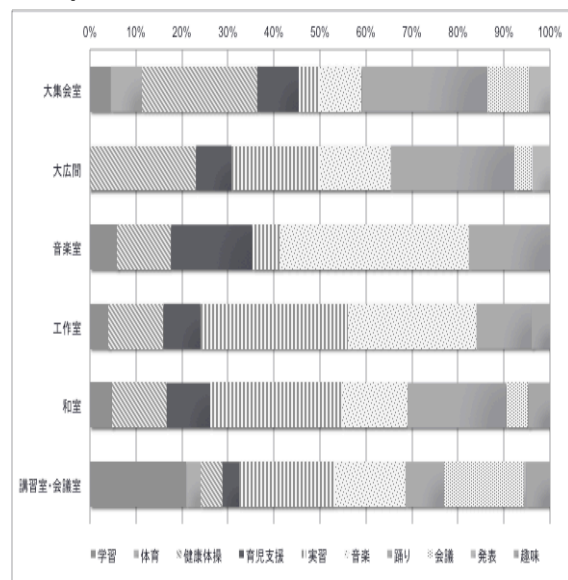


図1 諸室における利用行為の構成比

3. 機能複合スペースの属性分析

前述で述べた利用行為、規模、設えといった分類分けから、機能複合スペースの分析を行う。

3.1 規模と利用行為の関係

【大集会室】

①大集会室は、図1でみると、健康体操、踊りといった利用行為で半数を占める。また、利用行為と規模の関係でみると(図2)、健康体操が行われている11室に対し、踊りの利用行為が兼用されている室が10室みられる。

育児支援では、抽出された4室全てが、150～250 ㎡に集中し、健康体操、踊りとの兼用がみられる。250 ㎡以下の室に対しては、会議といった利用行為も集中し、利用行為数が多い室が集中している。

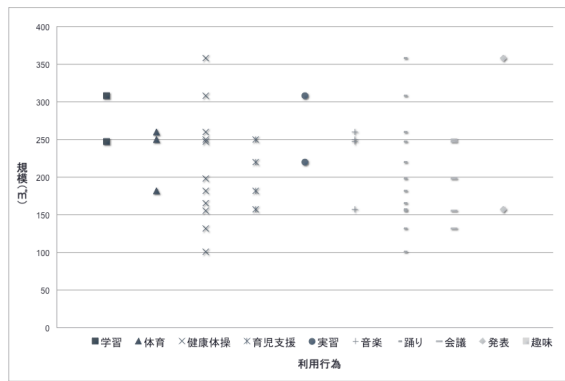


図2 大集会室における利用行為と規模の関係(抽出数 13)

3.1.2 [大広間]

②大広間では、図1でみるように①大集会室と同様、健康体操、踊りが利用行為として多くみられる。利用行為と規模の関係(図3)でみると、踊りが行われている7室のうち、5室が健康体操にも使用されている。また、踊りと健康体操の兼用に加えて、120㎡以上では音楽、100㎡以下では、育児支援の利用が抽出される。

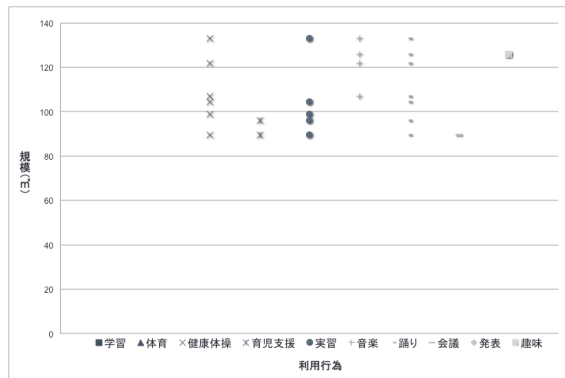


図3 大広間における利用行為と規模の関係(抽出数 8)

3.1.3 [音楽室]

③音楽室は、音楽の利用行為の他、抽出した8室のうち3室で、育児支援に使用されている。(図4) 育児支援における親子リトミック等の活動では、音響設備、ピアノが使われる事が多いことが室の選択理由として考えられる。

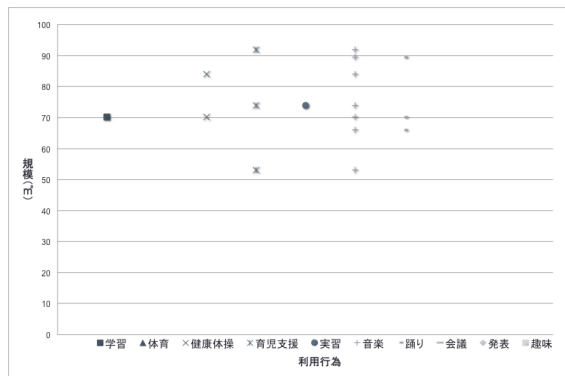


図4 音楽室における利用行為と規模の関係(抽出数 8)

3.1.4 [工作室]

④工作室は、図1でみるように実習と音楽の利用が多く占めている。音楽が行われている6室の内、1室を除く5室において実習との兼用がみられる。(図5) 創作室における音楽といった利用は詩吟、楽器演奏などがあげられ、個人で演奏する際の机、椅子といった設えによる演奏のしやすさが、利用の要因として考えられる。

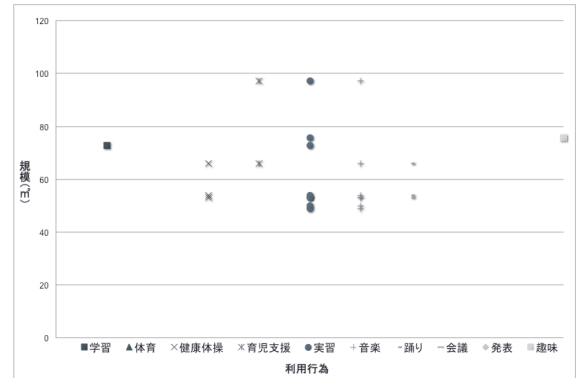


図5 工作室における利用行為と規模の関係(抽出数 9)

3.1.5 [和室]

⑤和室は、着付、手芸、茶道などの実習の利用行為の割合が高い。また、規模と利用行為の関係からみると、20㎡~60㎡に1室における利用行為数が多い室が集中している。(図6) この規模において、実習、健康体操、踊り、音楽といった行為が複数利用の要素としてあげられる。

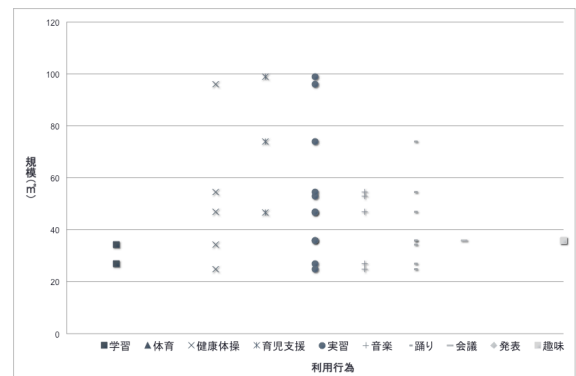


図6 和室における利用行為と規模の関係(抽出数 13)

3.1.6 [講習室・会議室]

⑥講習室・会議室は、図1でみるように、学習、実習、会議といった利用が多く、7分類の中で、最も利用行為が多岐に及んで行われている。これは、各事例もっとも室数が多く、机と椅子の教室型の基本設えは、利用行為に応じて、配置を変えてフレキシブルに対応できることがあげられる。複数利用における規模と利用行為

の関係をみても関係性は一概にはいえない。

(図7) 複数の利用行為における要因は、規模と設えの関係性以外の要因も考えられる。

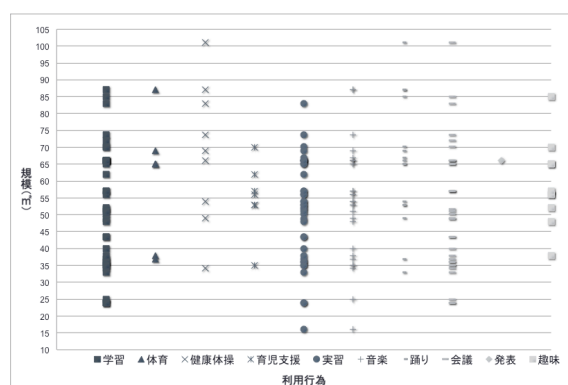


図7 講習室・会議室における利用行為と規模の関係(抽出数 53)

4. 複数の利用行為同士の影響

7分類ごとにおける複数の利用行為をみると、ある利用行為に誘発されて、他の利用行為が行われている可能性があると考えられる。

4.1. 規模による誘発行為

踊りと健康体操は、体を動かす利用行為であり、規模が要因で室の兼用が行われる。

〔踊り&健康体操〕

①大集会室、②大広間、⑤和室、⑥講習室・会議室において、複数の利用行為における踊りと健康体操の組み合わせが多くみられる。

〔踊り&育児支援〕

①大集会室、②大広間、④工作室で育児支援の利用行為が行われている室全てに対して、踊りの利用行為がみられる。

4.2 設えによる誘発行為

複数の利用行為で使用される共通の備品、設えの有無が室の兼用の要因にあげられる。

〔音楽&育児支援〕

育児支援が行われている③音楽室の全3室、④工作室の全2室は、音楽の利用行為もおこなわれている。育児支援の中心となる親子リトミックでは、音楽を使った利用行為が多いため、ピアノ、音響設備といった設えの有無が複数利用の要素となる。

5 機能複合スペースの特定にみる課題

機能複合スペースの特定における要素として、前述した規模と利用行為の関係性において、⑥講習室・会議室のように、複数利用における関係性が明確に示せない事例もみられる。これは、

ハキカエ行為^{注1)}や床仕上げ、家具の種類、配置など、設えの影響が利用行為に関係していることが考えられる。

また今回の調査において、機能複合スペースとして抽出した諸室に対し、複数の利用行為に対応すべく、収納倉庫などを各サークル活動団体に使わせている事例が多数みられる。主室と付属室^{注2)}の関係性をふまえると前述した備品、設えの関係からいえるように、複数の利用行為における要素として、付属室が深く関わっていることがいえる。

これらの課題の詳細な検討は、今後の研究課題とする。

6. まとめ

機能複合スペースの属性の整理、分析におけるまとめを以下に記す。

- 1) 大集会室、大広間といった、施設内の規模の大きい室は、健康体操、踊りといった利用行為に対応する。
- 2) 音楽室では、音楽の活動以外に音を使った育児支援の利用も行われる。
- 3) 工作室では、室の設えから、音楽行為にも対応している。
- 4) 和室では、20～60㎡の規模において、実習、健康体操、踊り、実習の利用行為が複数の利用行為の要素としてあげられる。
- 5) 講習室・会議室は、利用行為が多岐に及び、規模の他、設えの影響が大きい諸室である。
- 6) 諸室における複数の利用行為に対し、誘発行為をふまえた利用行為を考えた室構成が必要である。

注

- 1) ハキカエ行為 広田直行「生涯学習関連施設のオープンスペースに関する研究」1998年9月 p83
- 2) 主室と付属室 同上 p49

【参考文献・資料】

- 1) 浅野平八著「地域集会施設の計画と設計」理工学社 1995年7月
- 2) 広田直行「生涯学習関連施設のオープンスペースに関する研究」1998年9月
- 3) 片桐隆博「千葉市コミュニティ施設における学習行為と空間の対応」2006年3月
- 4) 建築知識 1983.5 備品・用具一覧 p119